

2015・10・30
循環・3Rシンポジウム

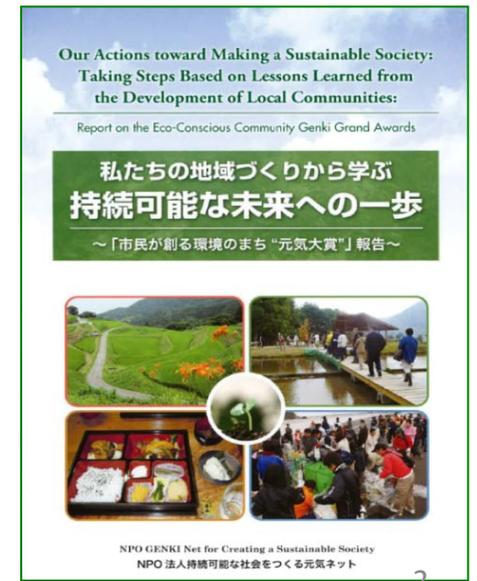
3Rの推進と主体間の連携強化について

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
鬼沢良子

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットとは

1996年からごみ問題解決へパートナーシップを育み 市民・NPO・事業者・行政の連携でつくる 環境活動リーダーと共に学び合う全国ネットワーク

- 「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」
12年間で築いた全国ネットワークで
持続可能な地域づくりを推進
- 入賞事例86件からアジア向け
31事例をピックアップし、
日本語・英語併記の冊子に



くらし・地域から出るごみ(環境負荷)に 生活者・NPOとして責任を持ち 持続可能な社会づくりに貢献したい！

家庭から出る
ごみ・資源・CO2

くらしの
化学物質

高レベル
放射性廃棄物

市民・企業・行政の
パートナーシップで解決をめざす！

アジア3R 推進市民フォーラム
(環境省と連携)

2009年から国内19の団体と共に日本大会を開催後、
政府会合のサイドイベントを開催国のNGOと毎年実施

3R普及啓発、市民リーダー育成
(3R推進団体連絡会、企業と連携)

2011年から容器包装の3R普及啓発事業
2013年からは雑がみ調査連携事業等

くらしの課題として
地域で学び合う場づくり

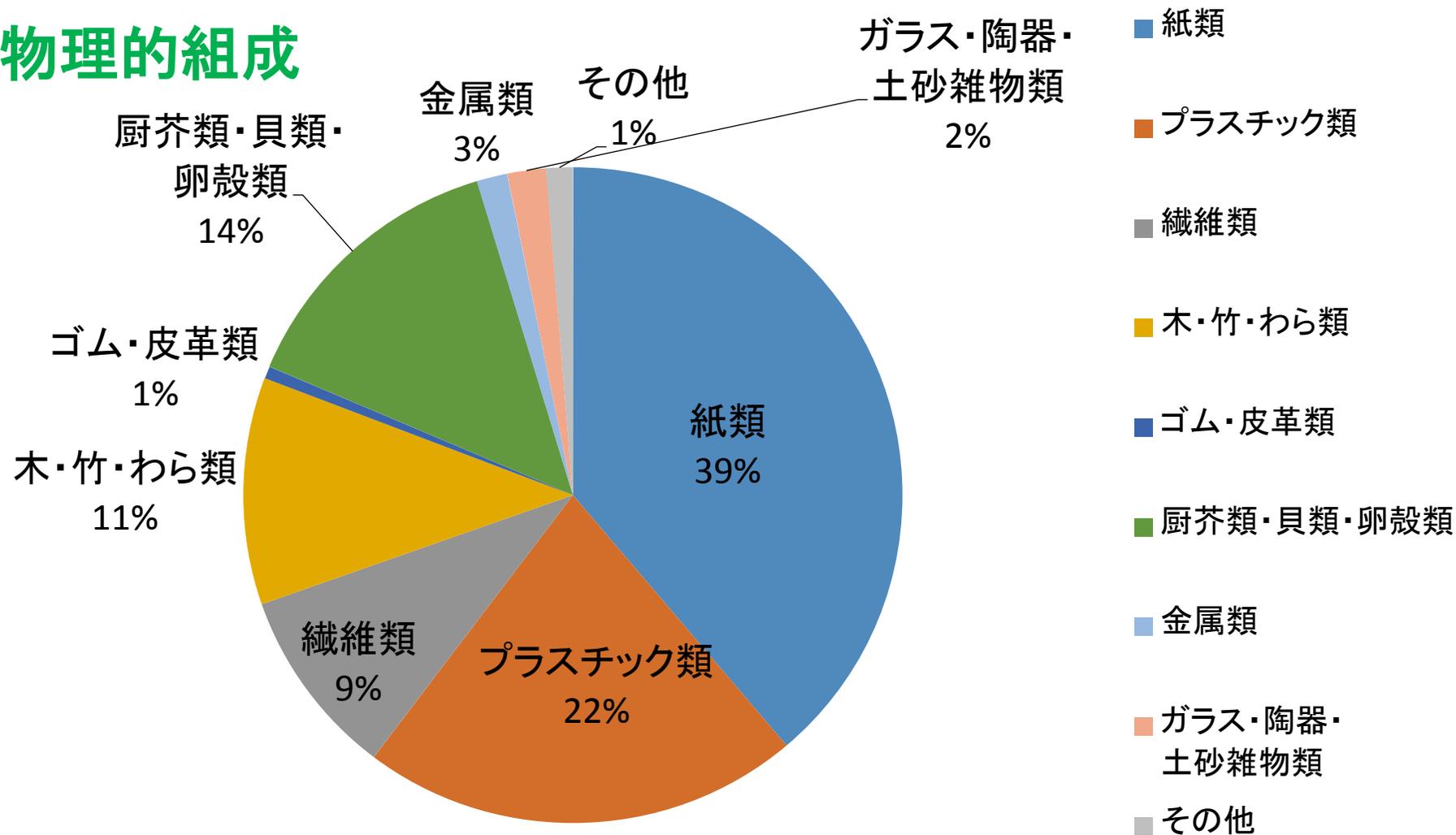
「電気のごみ」意見交換会
(資源エネ庁・地域と連携)

2007年から全国で90回の
地域WS・意見交換会を開催、
リスクコミュニケーションのファシリテーター
育成と共に、地域との連携を広げている

生ごみと紙ごみ削減に向けて

関東K市のごみ組成分析：厨芥・紙類に注目

物理的組成



元気ネットの3R普及啓発と市民リーダー育成事業①

①分別・リサイクルにおける普及啓発

2011年から3R推進団体連絡会と連携し、普及啓発と市民リーダー育成事業を実施

■2011年度→都内中心に地域リーダー約10人でスタート。「リサイクルの基本」を活用した学習及び「3R推進モデル講座プログラム」開発を通じて新たな3R市民リーダーを育成。

■2012年度→前年度に開発した「3R推進モデル講座プログラム」を活用し、3R講座を実施。

■2013年度→自治体のリサイクル担当部署や関連施設と連携、9回の3R講座を実施。

■2014年度は相模原市・国分寺市、2015年度はさいたま市・越谷市において、新規3R市民リーダーを育成。スタート時の市民リーダーは、指導役に。



元気ネットの3R普及啓発と市民リーダー育成事業②

②「雑がみをもっと活かそう！」連携プロジェクト

地域リーダー・自治体との連携による雑がみの分別、回収量アップをめざして、2013年6月に12名の地域リーダーと共に開始

■雑がみ資源化の現状、工場見学等、学び合いを6回開催（経済産業省紙業服飾品課もオブザーバー参加）

■2013年10月→家庭から排出される古紙量調査（実施）

■2014年度の社会実験①

→雑がみ（小紙片）チラシづくり及び自治体（松本市、八王子市）との連携し配布、回収量調査

■2015年6月22日

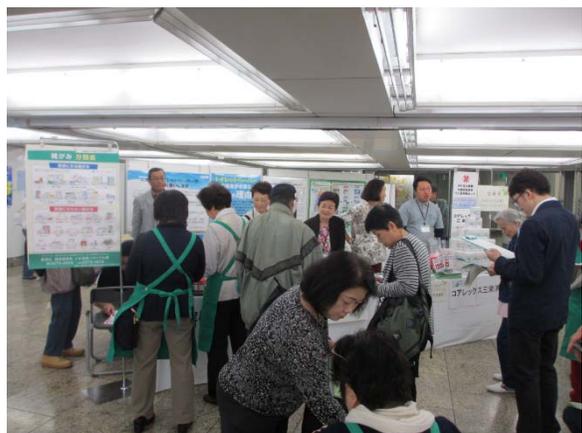
→雑がみ回収社会実験成果報告会（新宿区・葛飾区・荒川区）



元気ネットの3R普及啓発と市民リーダー育成事業②

②「雑がみをもっと活かそう！」連携プロジェクト

2015年度社会実験② イベントでアンケート調査



10月11日 11時～16時 新宿区3R推進キャンペーンイベント
(新宿駅西口イベント広場にて)

最後まで途切れることなく訪問があり **380枚回収**

➡ **新宿区と連携して普及啓発に活かす**

今後、葛飾区、荒川区でも実施予定

地域循環圏づくりとマルチステークホルダー会議 「連携」で「共創」する循環型社会高度化に向けて

～地球環境基金助成事業として実施～

目的：

世界の天然資源需給逼迫や、東日本大震災を契機とした資源・エネルギー自立型地域づくりの潮流など、日本がめざす循環型社会の姿は新たな段階に入っている。

持続可能な社会実現に向け、資源や地域性に応じた地域循環圏づくりと各個別リサイクル制度見直しの熟議の場として、**自治体・リサイクル事業者・小売店・メーカー・専門家・消費者・NPO等（省庁はオブザーバー参加）**を交えて実施。

個別テーマ：PETボトルの店頭回収・食品ロス削減・環境配慮商品と消費行動・アンケート報告等

2013年～2015年

EUの循環政策視察と

「個別リサイクル制度見直しに向けた
マルチステークホルダー会議」
開催と政策提案

（容器包装・食品・家電・自動車）



★マルチステークホルダー会議における議論

(2013年3回、2014年4回、2015年3回予定)

成果：様々なステークホルダーが同じテーブルに着くことで、課題の共有と課題解決に向けての率直な意見交換と熟議ができた。

最終年度は消費者への普及啓発がテーマ

【2020年以降の循環型社会づくりに向け熟議の場が必要】

■2Rと資源循環と消費行動

■環境配慮設計の周知と認識、消費行動のグリーン化(実践)

■廃棄物から資源への意識変革

■処理から、回収～ものづくりへの循環のための仕組みづくり

生ごみの削減⇒食品ロスの削減

各種リサイクル制度見直しに向けて、2013年EU調査を実施



Bundesministerium
für Umwelt, Naturschutz
und Reaktorsicherheit

“ごみ箱に入れるにはもったいない”
食品廃棄物を削減するためのキャンペーン

„Too good for the bin“

Awareness campaign to reduce food waste



Every eighth piece of food that we buy is thrown away.

You can change that!

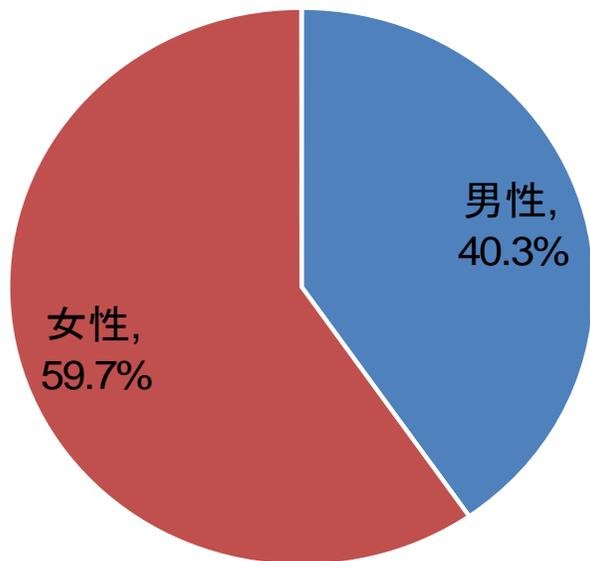
購入した食品の8分の1がいつも捨てられています。

この暮らしを変えましょう！

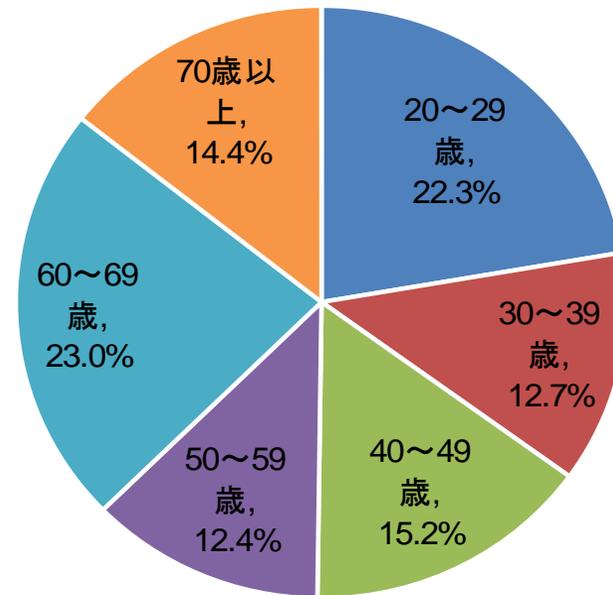
環境配慮に関する消費行動アンケート

2014年10月～12月 全国約500人の回答

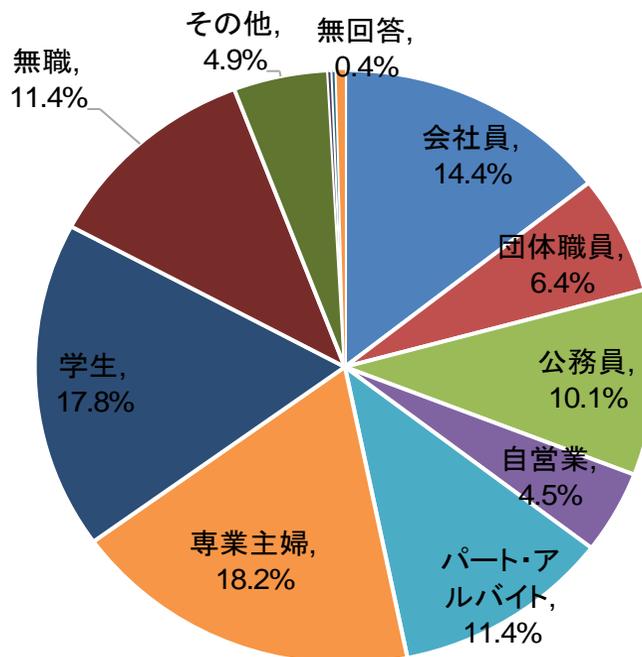
【 I . 基本事項 】



地球環境基金の助成により
元気ネットが実施

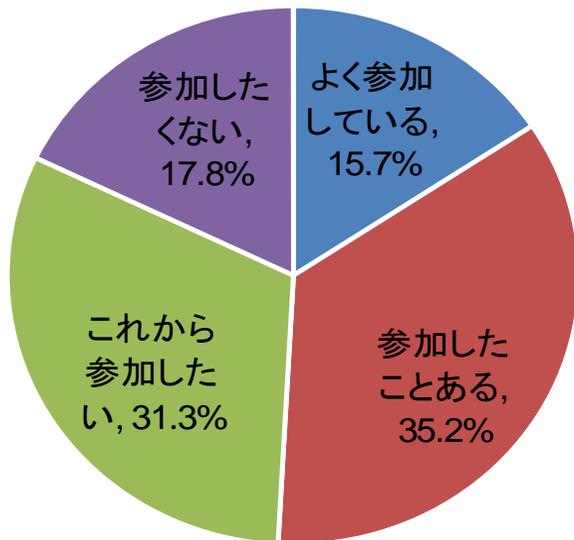


職業

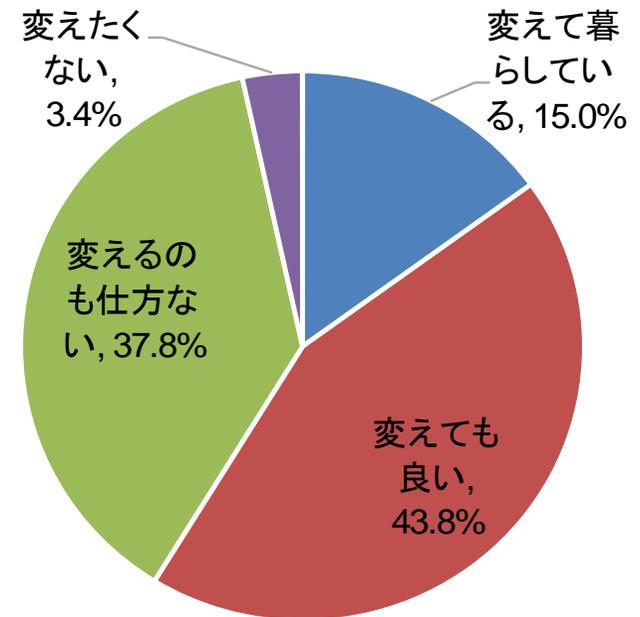


【Ⅱ. 環境について】

QⅡ-9. 環境に関する講座やイベントなどへの参加について



QⅡ-10. 環境のためになるのであれば、現在のライフスタイルを変えてもよいと思いますか



●どうしたら情報が伝わり、行動につながられるか

- ・パンフレット配布だけでは伝わらない→口コミ、身近な人から人へ！
- ・新しい(正しい)情報が伝わっていない→昔の情報、思い込みを捨てよう！
- ・若い世代へどうすれば伝わる？ →ライフステージに合った情報を！
- ・関心のない人には？ →お得な情報、楽しいイベントとセットで！

ゲームや
クイズで、楽しく、
わかりやすく

●伝える人を育てるには

- ・専門家や企業と市民をつなぐ人が必要→地域リーダー、市民講師
- ・人材発掘と育成→行政、専門家、企業、NPO、市民の協働体制で
- ・学ぶ場と伝える場→両方が必要、場数も重要

楽しい、面白い、
参加したいが必要



楽しく学べる講座
プログラム開発も

●持続可能な取り組みにしていくには

- ・長期的な支援体制→行政、NPO、市民、専門家、企業、それぞれの強みを活かして
- ・ひとりでは続かない→仲間づくり、組織づくりを支援する仕組みを

連携の相乗効果

地域リーダーは、 循環型地域をつくるつなぎ手の役割

■ 総合的な視点で、各主体の信頼をつなぐ

■ 企業・行政・市民の

環境コミュニケーションの担い手

■ 消費者・子どもたちの環境活動を応援

■ 市民参加を推進し、活動を地域に広げる

■ 地域の環境活動をする人材育成

地域から発信する持続可能な社会

・ 地域力、人間力で、環境と経済の好循環を

・ 「人づくり・地域づくり」で、持続可能な地域循環圏を

・ 日本の経験をアジアに・・・

顔の見える地域相互交流を